

シアトル市に向けた平和構築活動のための提言

セイラ・チェンバーズ（シアトル市・米国）

2016年8月20日

広島と長崎、被爆者、そして核不拡散の努力にかかる出来事や歴史について考える時、この問題や歴史、または取組にある程度通じている私であっても、今回の旅を振り返ってみて、この平和構築と相互理解の試みを解釈する際、どれほど多くの視点と物語が共存・重複し、そしてそれらが一つの凝縮されたものとなるのかが分かるようになりました。広島滞在中に出会ったひとりひとりを通じて、私は新たな歴史、新たな解釈、そして新たな真実を見出しました。こうした違いの理由はもちろん、地理的な位置、個人の経験、この問題への接触度など多数の要素に影響されます。

平和構築・核不拡散グループで活動してきた自身の過去と現在の経験を通じて、私は、自主的で人間主体の困難で野心的な取組を伝えるために芸術の活用が盛んに行われているのを知っています。そこにはまた、こうした問題は様々な物語から成る多面性を持った一つの集合体であり、それに照らして個々人が自力で真実や理解と折り合いをつけることが求められているという私の理解が現れています。芸術、または他の双方向的なコミュニティ主導型の手段を通じて、これら重要な出来事や現実を公にし、教育に重点的に取り組むべきだと感じています。

シアトル市への提言を考えると、当地ではこの活動に非常に力を入れている強力で立派なコミュニティが既に形成されていることもあり、支援のアプローチはごくシンプルです。単純に、より多くの支援が必要とされているのです。彼らは教育を受けた意欲的な個人で、仕事をきちんと遂行します。必要としているのは、その努力を新たな成功へ導くより多くのリソースと正式な支援なのです。イベント「広島から希望へ（From Hiroshima to Hope）」は既にごく順調に進み、市長も非公式な立場で参加すると見られ、次席責任者もイベントでスピーチをする予定です。しかし本件及びその他の類似するイベントにおける市長の公式なプレゼンスと支援は、地域全体の多くの参加者と組織的な支援を集めるイベントの発展にはきわめて有益でしょう。域内のその他の組織もまた、耳を傾けてくれる相手がいることで恩恵を受けるはずです。例えばグラウンド・ゼロは、わずか約65キロ先にある、核兵器を配備した国内最大の施設であるキットサップ海軍基地に一般の注目を集めるため、キング・カウンティ・バス14台を自己資金で調達しました。シアトル市に対する私の提言は、こうしたコミュニティに参加し、どのように支援すればいいかを明らかにすることです。ウイング・

ルーク博物館（正式名称：アジア太平洋におけるアメリカの体験に関するウイング・ルーク博物館）もまた、シアトル市との素晴らしいパートナーシップにつながりそうな同様のプログラムを計画中です。さらに、シアトル市が来年、HIROSHIMA and PEACE の参加者をまた 1 人推薦してくださるよう希望します。シアトル市できわめて協力的な素晴らしい人々と出会うなか、私は本プログラムの優れた人材になると思われる、ある若い女性インターンと知り合いました。また広島市との間で育まれている関係を維持することは、この努力を後押しすることになるでしょう。

私は既に同市を離れ、平和首長会議加盟都市であるシカゴに戻っており、私の手元には既に多くの取組があります。広島・長崎原爆展の企画運営は、広島市及び長崎市の後援を受け、私の所属組織であるシカゴ日本文化センターが主催するものであり、私はこの 1 カ月にわたる展示会を最初から最後まで、新規に立ち上げることになります。日本総領事及び（原爆を投下した大統領である）トルーマン大統領の孫クリフトン・トルーマン・ダニエルの出席の確約を得ました。両者とも活発なメンバーとなるでしょうし、私は現在、市長の出席を取り付けようとしています。さらに前進し、私は日本文化センターを、平和首長会議及びシカゴ地域における核不拡散の取組の揺るぎない支持者にしようとしています。このために、センターを平和構築のイベント及び取組の会場として、並びに地元大学の学生グループが独自の取組の企画運営を希望する場合に頼れるリソースとして提供するつもりです。

より個人的なレベルでは、広島平和記念資料館から借り受けている現在の日本文化センターでの展覧会の終了後、同センターまたは同市内の別の博物館を通じて、丸木俊の壁画を今後の展覧会に向けて確保したいと考えています。この芸術作品によって、私はこの活動と問題の重要性を理解したからです。これを他者と分かち合うことが私の夢です。またできる限り多くの平和に関する視点、意見、そしてビジョンを包摂することも私の夢です。これが当市と広島に対する私の提言の根幹です。取組を組織する際に平和に関する新しい考え方、夢、知見を継続的に採り入れていく能力はなにより大きな必須要素です。そうすることにより、その過程と結果に個人的に更に力が入るだけでなく、この重要なミッションの将来が 1 つの意見だけに主導されることがなくなります。主導するのは、単独ではなしえない大きなものを築き上げることのできるチームです。平和首長会議のプログラムによりこの活動に携わる機会を与えられ、言葉にならないほど感謝しています。今後、私の意見を採用したいと希望する人がいれば、いつでも提供する所存です。いつでも。私はまた常に協力し、ともに夢見る仲間を求めていきます。平和の未来はこうして築かれるのだと思います。